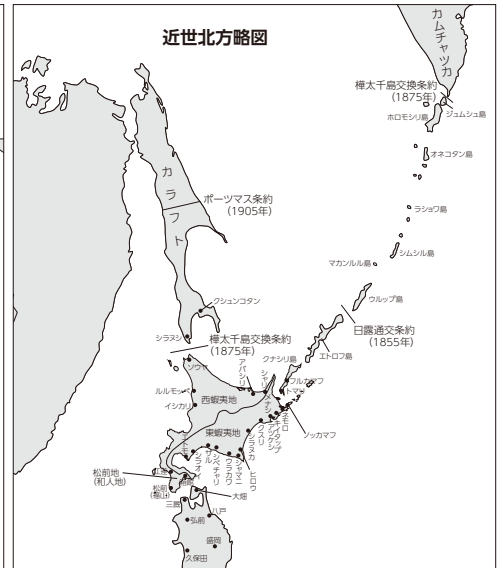


# クナシリ・メナシの戦い

菊池勇夫 著

## ——事件の復元と歴史的位相

幕府は松前藩の収奪を批判しながら、アイヌの「撫育」を掲げて人々の前に立ち現れた。はたして、それはアイヌの人々にとって歓迎し、期待すべきものであったのか。「国家」が重たくアイヌ民族にのしかかる「近代」の困難の始まりを告げるかのような、クナシリ・メナシのアイヌの戦いの戦後の歴史であった。この過程で、先住民族であるアイヌの人々が何を、どのように失い、あるいは奪われたのか、事実の検証と復元が欠かせない。そのことがアイヌの人々の権利の回復と未来、そして日本の民主社会の前進と、何がしかつながっていることに歴史学の役割を思いたい。



菊池勇夫 (きくち・いさお)

### 略歴

1950年 青森県生まれ。

1980年 立教大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。

現在 宮城学院女子大学名誉教授。分野：日本近世史。

### 〈著書〉

『幕藩体制と蝦夷地』(雄山閣出版、1984年)

『北方史のなかの近世日本』(校倉書房、1991年)

『アイヌ民族と日本人』(朝日新聞社、1994年)

『エトロフ島』(吉川弘文館、1999年)

『菅江真澄が見たアイヌ文化』(御茶の水書房、2010年)

『十八世紀末のアイヌ蜂起』(サッポロ堂書店、2010年)

『アイヌと松前の政治文化論』(校倉書房、2013年)

『近世北日本の生活世界』(清文堂出版、2016年)

『義経伝説の近世的展開』(サッポロ堂書店、2016年)

『非常・非命の歴史学』(校倉書房、2017年)

『探究の人菅江真澄』(無明舎出版、2017年)

『飢えと食の日本史』(吉川弘文館、2019年 再刊)

『道南・北東北の生活風景』(清文堂出版、2020年)

『戊辰戦争と東北・道南』(芙蓉書房出版、2022年)

『アイヌ文化史辞典』(吉川弘文館、編著、2022年)

ほか。

### 目次

はじめに	8
第一章 道東・千島の歴史的環境	21
第二章 蜂起の報と風聞	51
第三章 襲撃の現場—生存者の語り	71
第四章 現地へ向かう鎮圧隊	109
第五章 説得・帰順、そして処刑	129
第六章 蜂起の原因—「非分」の実態	167
第七章 城下行列と御目見得	197
第八章 幕府の事件認識と対応	219
おわりに	254
参考文献	262
あとがき	264

### 近世北方略図

### クナシリ・メナシの戦い関係図

貴店番線	発行：藤田印刷エクセレントブックス TEL0154-22-4165 FAX0154-22-2546	
月	クナシリ・メナシの戦い ——事件の復元と歴史的位相	2022年8月26日 第1刷発行 発行所 藤田印刷エクセレントブックス 判型 新書判(268頁) 印刷・製本 藤田印刷株式会社
日		
冊	菊池勇夫 著 定価1,320円(税込) ISBN 978-4-86538-143-6 C0221 ¥1200E	

ご注文はJRCへ FAX03-3294-2177まで